

関東甲信越計量団体連絡協議会

第2回 計量大会 報告書

会期：令和5年10月26日(木)～27日(金)

会場：長野市 ホテルメトロポリタン長野



目 次

1	第2回 計量大会 概要	
	○大会日程・次第	1
	○参加者（ご来賓・会員）	1
2	協議会（議事録）	
	○主催者挨拶	2
	○来賓祝辞	2
	○議事	
	(1)会務・会計報告及び監査報告	4
	(2)提案議題審議	
	①新たなメディアを活用した小学生向け計量・計測の普及啓発活動の提案	4
	・提案趣旨説明・事前アンケート調査報告	
	・事例発表(プレゼンテーション)	
	・意見交換・とりまとめ	
	②トラックスケールの器差検査等に使用する基準分銅等と「仮分銅」について	7
	・提案趣旨説明・事前アンケート調査報告	
	(3)講評	7
	(4)運営委員会中間報告	
	・一般計量士の会員確保や育成の対策として当団体が取組みめる事業及び具 体的取り組み内容	8
	(5)映写資料	10
3	感謝状及び記念品贈呈式	13
4	記念講演	
	○葛飾北斎の生涯 ～ 信州小布施の名品 ～	14
5	懇親会	15
6	研修見学会	
	○善光寺参拝・仲見世通り ～ 小布施町（岩松院・北斎館）	16
7	構成団体・連絡先一覧	17
■	御礼のことば	18
■	大会を終えて（編集後記）	19

I 関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回 計量大会 概要

1 会 期：令和5年10月26日（木）～27日（金）

2 場 所：長野市 ホテルメトロポリタン長野

3 次 第

○10月26日（木）

（1）協議会 13：30～15：50

（2）感謝状贈呈式 16：00～16：15

（3）記念講演会 16：30～17：30

（4）懇親会 18：00～20：00

○10月27日（金）

研修見学会 9：00～14：00

善光寺参拝・仲見世通り ～ 小布施町内 岩松院 北斎館

4 参加者：合計148名

【来 賓】 19名

仁 科 孝 幸 様	経済産業省産業技術環境局計量行政室 室長
竹 歳 尚 之 様	国立研究開発法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター 計量標準普及センター長
島 岡 一 博 様	国立研究開発法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター 計量標準普及センター 計量研修センター長
斉 藤 和 則 様	独立行政法人製品評価技術基盤機構 認定センター 所長
滝 沢 裕 之 様	長野県産業労働部次長兼参事
平 林 裕 司 様	長野県計量検定所 所長
渡 辺 敏 之 様	千葉県計量検定所 所長
戸 澤 互 様	東京都計量検定所 所長
中 村 裕 一 様	長野市商工観光部長
山 口 泰 弘 様	長野市商工観光部 商工労働課長
翠 川 和 広 様	上田市産業振興部 商工課長
河 住 春 樹 様	一般社団法人日本計量振興協会 専務理事
宮 沢 敬 治 様	一般社団法人日本計量振興協会 理事
小 島 孔 様	一般社団法人日本計量機器工業連合会 専務理事
三田村 義 崇 様	日本硝子計量器工業協同組合 副理事長
大 森 規 雄 様	全国計量器販売事業者連合会 会長
小野寺 明 様	一般社団法人日本環境測定分析協会 会長
土 田 泰 秀 様	一般社団法人日本計量史学会 副会長
横 田 俊 英 様	株式会社日本計量新報社 代表取締役社長

【会 員】 129名

一般社団法人茨城県計量協会	13名	公益社団法人神奈川県計量協会	8名
栃木県計量協会	1名	神奈川県計量士会	6名
一般社団法人群馬県計量協会	7名	一般社団法人新潟県計量協会	13名
一般社団法人埼玉県計量協会	12名	一般社団法人山梨県計量協会	2名
一般社団法人千葉県計量協会	13名	一般社団法人山梨県計量士会	0名
一般社団法人東京都計量協会	16名	長野県計量協会	30名
東京計量士会	8名		

Ⅱ 協議会(議事録)

1 開 会

- 長野県計量協会（開催当番）丸山副会長

本日は、お忙しい中、また遠路お集まりいただきありがとうございます。昨年度より「計量大会」と名称を改めたこの集まりを本県で開催するのは 2012 年以來であり、今回は仏都長野市での開催となった。

これより関東甲信越計量団体連絡協議会第 2 回計量大会を開催します。

2 主催者挨拶（要旨）

- 関東甲信越計量団体連絡協議会 会長 小川 弘

本日は、経済産業省計量行政室長 仁科孝幸様をはじめ多くの来賓の方々にご臨席を賜り誠にありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、3 年に亘り求められてきた社会生活や企業活動の様々な制約がこの 5 月になくなった。昨年 7 月に新たに発足した当協議会にとって、今回が制限なく一堂に交流できる初の場となる。今回の協議が計量・計測に係る諸問題の解決の糸口となることを確信し、また情報交換や相互交流の場となることを願っている。

昨今の計量・計測業界を取り巻く環境を見ると、機器の開発・生産・管理・運用いずれの場面においても SDGs の推進や IoT の導入が要請されるなど目まぐるしく変化が続いている。私ども計量団体にとっても、自動はかりの検定機関の問題や計量士不足の問題など、より広域化、多様化する要求に応えることが求められており、当協議会の果たす役割も今後益々重要性を増していくと考えている。

その一方で、適正計量の確保はいつの時代でも大切な使命であることに変わりはない。ご参集の皆様には計量・計測を通じ、人々の生活を守り経済発展の礎を守るために益々のご発展とご活躍をされることを願って開会の挨拶とする。



- 長野県計量協会（開催当番） 会長 長坂 宏

皆さま、長野によろそおいでくださいました。大勢のご参加をいただき無事に開催できることを当番県の代表として感謝申し上げます。

今回の大会は、昨年発足した新しい協議会と新しい時代にマッチした集まりにしたいとの思いのもとで設営し、協議内容については、「計量士不足や自動はかりの問題」からは一旦離れ、新しいメディア活用の視点から「子どもたちに対する計量教育において、自分たちができることは何か」をメインに取り上げた。

また記念講演では、小布施町の「北斎館」美術館より講師をお迎えし、葛飾北斎の作品と信州のゆかりについて講演をいただき、明日は仏都長野市の象徴である善光寺をお参りした後、小布施町を巡る研修見学会を企画している。二日間にわたり当番県としての責務を果たして大会が実り多きものとなるよう努めると共に、皆さまに信州・信濃をご堪能いただけるよう願って歓迎の挨拶とする。



3 来賓祝辞（要旨）

- 経済産業省産業技術環境局計量行政室長 仁科 孝幸 様

関東甲信越計量大会が多く関係者のご出席の下、盛大に開催されることを心からお喜び申し上げます。

計量制度は国民生活の安心安全や経済活動における取引の信頼性を確保する社会の根幹を支える基盤であるが、今年は現行の計量法施行から 30 周年、前身の度量衡法施行から 130 周年となる節目の年である。この制度が適切に適用され信頼を確保してきたのは、本日お集りの皆様方の努力の賜物であり、今後もご支援、ご協力を願いたい。直近ではこの 7 月に、産総研で実施する一般計量講習の受講料を



指定定期検査機関などの職員に限り半額とする省令改正を行ったところである。伝統ある計量制度であるからこそ、引き続き社会環境の変化に対応した不断の見直しを続けるのでご意見、ご支援を頂戴したい。

さて、当省が作成した今年の計量記念日ポスターは、Kg など七つの計量単位をデザインして説明用のQR コードを付けるなどの工夫をしている。今後も日計振など関係団体の皆様と共に計量制度の普及活動にも努力して参りたい。

最後に大会準備に尽力された長野県計量協会の皆様に感謝するとともに、ご参集の皆様のご発展、ご健勝を祈念してあいさつとする。

○産業技術総合研究所 計量標準総合センター

計量標準普及センター長 竹歳 尚之 様

関東甲信越計量団体連絡協議会第 2 回計量大会がここ長野で多数の皆さんの参加の下で開催されることを心よりお祝い申し上げます。

産総研では今年 4 月、研究成果を社会に普及することを支援する法人 AIST Solutions を立ち上げた。計測に係る共同研究等の窓口はこちらの法人となるが、法定計量・講習などは引き続き計量標準総合センターで直接行うのでよろしくお願いしたい。

今年度の産総研の活動としては、8 月の夏休み期間中に行われる経産省こどもデー計量ブースに参加し 1 日に 300 人の親子に来場いただいた。同時期に和歌山で開催された全国理科教育大会で計量単位の定義改定の展示を行い、中高教員向けに啓発活動を実施した。また、先日の計測標準フォーラムでは「計量標準・計測における DX」に関する講演会を開催し、来年 2 月には NMIJ（計量標準総合センター）成果報告会をつくばで開催する。

なお、計量標準総合センターのホームページをリニューアルし、法定計量のページにもアクセスしやすくしているので、ご覧いただきご意見を頂戴したい。今後も計量法に係る業務を着実に実行し、計量計測に係る啓発も皆様と協力して盛り上げていきたい。

関東甲信越計量団体連絡協議会の皆様方の益々のご活躍、ご発展を心より祈念してあいさつとする。



○長野県産業労働部 次長兼参事 滝沢 裕之 様

関東甲信越計量団体連絡協議会の計量大会が、関係各位のご出席のもと盛大に開催されることを心からお祝いするとともに、ご来県いただいたことに御礼、また歓迎を申し上げます。

ご参集の方々には、日頃から計量思想の普及啓発と適正計量の確保に多大なご尽力をいただき、感謝と敬意を申し上げます。長野県においては、明治 26 年に長野県度量衡常置検定所が設立されて以来 130 年、適正計量の確保を目的に着実に業務を実施しているが、本日の大会を契機に関係各位と連携をしながら、計量思想の普及と検定検査業務を通じた公平適正な取引支援に努めていく。

信州は秋の紅葉観光シーズン真っ只中である。善光寺や小布施の他にも時間の許す限り観光をお楽しみいただくと共に、リンゴやブドウなどの果物、共に全国で 2 番目の数がある酒蔵の日本酒、ワイナリーのワインなどもお楽しみいただきたい。

本日の大会を通じ、関係者の連携が深まって一層発展されることを期待するとともに、皆さまの益々のご健勝をお祈りしてお祝いの挨拶とする。



4 来賓紹介

《P 1 のご来賓参加者名参照》

5 議長選出

長野県計量協会 長坂会長（開催県）を選出

6 議事録署名人選出

長野県計量協会 長坂会長（開催県）及び千葉県計量協会 瀬口会長（次期開催県）を選出



7 議 事

(1) 会務・会計報告及び会計監査報告(要旨) (大会冊子 3 ページ～9 ページ)

○(一社)東京都計量協会 堀井専務理事 (関ブロ事務局)

関ブロではこれまで計量協会と計量士会の二つの団体が活動していたが、行政対応や計量士育成など共通の課題も多く、活動の活性化、合理化の観点から令和 4 年 7 月 1 日に両団体を構成メンバーとする当協議会が新しく発足した。P 3 から P 5 に新団体発足以降の令和 4 年度の会議等の開催実績、P 8 に令和 5 年度の事業計画を掲載した。

昨年埼玉県で 3 年ぶりに開催された協議会の議論の場では、計量士の高齢化、不足、育成の問題が集中的に議論され、関ブロ全体の問題として積極的に協力していくことが確認された。それを受け、代表者会議から運営委員会に対して 1 都 9 県で統一して行える事業の具体化が諮問されてこれまで検討が続けられており、本日この場で中間報告がなされることになっている。

次に、P 6 と P 7 に令和 4 年度の決算報告と監査報告、P 9 に令和 5 年度の収支予算書を掲載しているので後ほどご覧いただきたい。

(2) 提案議題審議 (パワーポイントによる映写を含む)

【提案議題 1 趣旨説明】(要旨) (大会冊子 10 ページから 13 ページ)

○長野県計量協会 若林事務局長

「新たなメディアを活用した小学生向け計量・計測の普及啓発活動の提案」

平成 28 年開催の神奈川県での当協議会において「義務教育の中に、生活と産業を支える計量計測への親しみをはぐくむカリキュラムについて」との提案があり、東京計量士会の事例発表などが行われる中、関ブロとしては東京都や神奈川県で実施されている小学校への出前授業や親子計量教室などの先進団体の事例を参考にし、他県にも広げられるよう取り組もうとなったと聞いている。残念ながら本県においては、その後新たな取り組みができていない。子どもたちが計量に無関心であることは、計量士不足の遠因の一つとも思われ、改めて先進県の支援をお願いしつつ、昨今急速に普及している YouTube などの新しい映像資料を活用し、タブレットを利用した出前授業などの啓発活動が実施できればと思い提案した。

各団体への事前アンケートの結果、平成 28 年以降新たに出演授業に取り組まれた団体はなく、設問 6 の結果からその理由として授業実施には次の 3 つの障壁があると推測された。

- ① 授業シナリオや映像資料がない、又は不足している。
- ② 講師となる者の養成ができていない、講師のやり手がいない。
- ③ 学校へのアプローチ法、学校カリキュラムとのマッチングなど学校との関係性。

本日は、出演授業の障壁となる課題の整理と、それを解決し少しでも前に進める方策、ことに関ブロの私たち自身ができることを協議いただきたい。

【各県状況説明】(要旨)

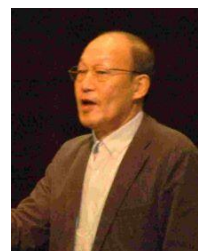
○東京計量士会 小林会長

本日は実際に出前授業で使うパワーポイントを映写して、会場の皆さんに雰囲気を感じてもらおうが、初めに平成 17 年から始まったこの取り組みの基本的な考え方を説明する。

まず年度の初めに計量士会、計量協会、行政、日本硝子計量器工業協組、計量器コンサルタント協会の 5 団体で協定書を結び、検定所が教育委員会へ出演授業の要望を聞き、申込みがあった場合には授業で使用する資料の提供、購入、講師や補助者の派遣、交通費の補助等それぞれの役割を果たすこととなっており、バランスよく続けられている。18 年間の実績は延べ 276 校、458 クラス、15,283 人となっている。

授業内容は、棒はかり、寒暖計の工作の前段として以下の「計量の話」をパワポ映写で行っている。

- ① 身近な生活での計量との関わり (生活や身体に関すること等)
- ② 計量が物づくりや科学技術に貢献 スポーツとの関係



- ③ 単位の起源とメートルの起源
- ④ 単位の基準を定める
- ⑤ 計量クイズ（おまけ付きのスナック菓子の内容量は？）
- ⑥ 計量法の役割 計量の見張り番

それでは授業に入ります。

「長野・関ブロ小学校の皆さん、こんにちは！」



～ 以降は独自に製作したパワポ資料を映写しながら授業を進行 ～

○(公社)神奈川県計量協会 山口事務局長

神奈川県では計量協会と計量士会が共同で「夏休み小学生計量教室」と「相模原市夏休み子ども消費者教室(棒はかりをつくってみよう!)」を実施している。その概要と今後の課題、特に小学校へのアプローチ手法と行政との連携に絞ってお話する。

夏休み小学生計量教室は神奈川県計量検定所と共催となり、県のホームページに「夏休みかながわ子どもワクワク体験」の一つとして掲載されるが、同様の「ものづくり体験」が200ほどもあり、そこから子どもに選択してもらうことは非常に難しい。協会では事務局職員等が会場近隣の6～7校にチラシを配布し、副校長に生徒への周知をお願いするなどしているが、その際はクラスごとにチラシ枚数を整えるなど学校側の負担を減らす努力をしている。また、学校によっては教育委員会の後援がないと断られることもある。

一方で相模原市の消費者教室は行政が主催しており、比較的市立の小学校にアプローチしやすい。他の特定市にもこうした取り組みを広げていくのが一つの手段かと思われる。今年度の参加者は子ども10人前後及びその保護者だったが、参加後のアンケートでは「楽しかった」という声が圧倒的であり、子どもの心をつかめていることが良くわかるし、好評なので相模原市からは次年の開催について要望が出ている。

○長野県計量協会 香遠副会長

(独自に制作したパワポ資料を映写しながら進行)

弊社は産業廃棄物等の収集運搬、中間処理を行っておりトラックスケールを使用している。環境分野では環境学習推進法という法律があり、工場見学の受け入れや環境教育への支援が要請されているため、20年以上前からリサイクル工場の見学、環境講演会、出前授業などに取り組んでいる。また、自身も資源回収協同組合連合会の研修で、工場見学時の従業員側の受け入れ対応の要点や出前授業講師のポイントなどを講演しているので、このノウハウが計量分野での出前授業等に役立てればと思い発表する。



まず小学生向けの授業やそのスライドの製作等に当たっては、子どもを飽きさせない工夫が必要である。パワーポイントは紙芝居を作るソフトと心得て、できるだけ楽しめるように心がけ、子供向けアニメ映画を参考に図や絵を多用し、クイズ、動画などを10分から15分おきに入れて授業を盛り上げ、授業の最後ではペットボトルから綿を作る実演もする。なお、まだ学習していない言葉や単位については、別の言葉に置き換えるなどの配慮をする。

学校へのアプローチの際には、先生が何を望んでいるかを把握して当方が教育活動にどんな協力ができるかをアピールすることが重要で、弊社では年度初めに先生向けの合同工場見学会の開催や出前授業のデモを実施している。併せて、新聞やTV局等の報道機関向けに出前授業の案内をして取材してもらうことも大事である。

環境学習以外でも、5, 6年生の「総合学習」や3年生の「お仕事」の学習の際に、スーパーマーケットなどのはかりを使用している現場、はかりやメーターの製造工場などを見学してもらい、計量計測の大切さを伝えることができると思う。

なお先日の地域の環境フェアで、お昼のテレビ番組にインスパイアされて「300グラムびったんこチャレンジ」というイベントを催し好評だった。1kgの紙粘土から300gを切り出す体験で、計量に目を向けてもらう良い機会となったと考える。

○議長（長野県計量協会 長坂会長）

3 名の方から発表をいただいた。計量教育に一步を踏み出すための貴重な示唆が含まれていると感じられた。関ブロとして進むべき方向性を協議して参りたいが、会場の皆様から「こうすれば出前授業の実施に向けて前向きに取り組めるのでは」、というご意見をいただきたい。

○産総研 竹歳計量標準普及センター長

小学生に向けて計量の話をする事は私自身苦労している。そんな中、今年小学生向けに2冊の本を出した。「秒・メートル・キログラムの大研究」（PHP 出版）臼田計量標準総合センター長の監修によるかみ砕いた表現の本と、「理系の職場（5）産業技術総合研究所のしごと」という図鑑である。また、産総研のホームページの市民講座の中に4つの計量単位を紹介するYouTube動画を製作し公開している。

これらが皆さんの今後の啓発活動の一助になればと思う。

○新潟県計量協会 田中副会長

弊社はトラックスケールを製造している。先ほどの発表の中で工場見学の話があったが、新潟県の燕三条地域では今日から3日間オープンファクトリーを開催しており、弊社も工場を開放している。例年全国から多数の見学者があり、「質量は同じでも重さは沖縄と北海道では違うんだよ」と重力加速度のことを話すと皆さんびっくりする。

工場見学の希望があれば、新潟県計量協会へご連絡いただければと思う。



○日本計量史学会 土田副会長



本日の計量大会冊子の裏表紙に「計量は文明の母である」と書いてあるが、東洋計量史資料館は古い度量衡を13,000点ほど保管する日本最大の資料館である。定期的に勉強に来る学校もあり、精密天びんで1円玉を量るとそれぞれの重さが違うことにびっくりする。

今のはかりは、ロードセルを含め「はかる原理」が子どもたちにわからなくなっている。センサー、IC等では結果が出るが現象はわからない。古いはかりは原理原則を知る上でとても大事であり、これらを通じて計量への関心を更に高めてもらう努力をしている。

機会があれば松本の計量史資料館をご覧いただきたい。

○長野県計量協会 丸山副会長

ここまでの発表やご意見などを聞き自分なりに整理すると、計量教育については計量行政室や日計振にお任せするような学習指導要領などの大きな話がある一方で、本日の話のように地味であっても子どもたちに刺さるような取り組みを継続することの重要性について再認識させられた。

出前授業の実施には地域により様々なノウハウがあってやり方が異なるし、工場見学の受け入れ先や情報提供者がいるかいないか、経験があるかないかでも違うし、学校へのアプローチ方法も変わってくる。最近ではYouTubeなどの新しいメディアもあるので、ホームページで発信するだけでなくスマホなどでも見ることができるよう工夫も必要となっている。

地域ごとに事情が違うから我々にはできないと思い込むのではなく、自分たちの業界、地域に眠っている資源があるのではないかと、他県ではこうやっているがこれなら真似ができる、参考にできるのでは、と考えることが重要ではないか。計量教育のノウハウを共有することが地道な活動につながり、良い方向につながると感じた。



【提案議題1 とりまとめ】

○議長（長野県計量協会 長坂会長）

3都県における出前授業などの取組や問題点の発表をいただき、またその他の取組みやそれらに対する様々なご意見やご発言をいただいた。議論の方向としては、計量教育の実践は、各団体の負担となり難しいことではあるが、自分たちの手によって小さなことでも積み重ねてす野を広げ、計量計測意識を盛り上げることが大事であるということかと思う。

関ブロ内でも先行する団体のノウハウを活用しながら、自分たちも含めて楽しめるような新しい教育用ツールも活用した取組みを考え、講師も育てる時である。

まず関ブロ全体でどんなことに取り組めるか、会員団体全体の実践に結びつけるためにはどうしたらよいか、本日の議論を参考に代表者会議等で検討して参りたい。これとは別に大きな視点で計量行政室や日計振には計量教育にかかわっていただくことを要望したい。

このように本日の議論を取りまとめさせていただいてよろしいか。

《参加者の拍手をもって了承とする》

【提案議題2 趣旨説明】（要旨）（大会冊子 14 ページから 16 ページ）

○長野県計量協会 新貝計量士部会長

「トラックスケールの器差検査等に使用する基準分銅等と『仮分銅』について」

当協会では年間 100～120 台のトラックスケールの代検査を実施している。7 月から 8 月に集中して検査用の 1 トン基準分銅 36 個を長野県計量検定所から有償でお借りし、60 トンのはかりまではいわゆる「仮分銅」を使用することなく検査してきた。

この分銅の運搬及びクレーン・フォークリフト作業を行うために運搬業者と契約を結んでいるが、昨今の燃料費の高騰や人件費の上昇などから、この契約金額が大幅に上昇して収支が厳しくなっている。このため、検査費用の削減を図るため、「仮分銅」を使用した検査をもっと積極的に導入できないか研究をしたい。例えば、大型トラック 1 台分の分銅 12 トンの運搬をやめれば、経費はだいぶ下がると考えており、各団体の状況をお伺いしてご助言をいただきたく提案した。

事前アンケートの結果、トラックスケールの検査を実施しているのは 9 団体あった。設問 4 にあるように、このうち仮分銅を使用しているのが 7 団体、しかも仮分銅を使用する割合は、100%の団体も含めてかなりの高い率であり、本県のみ 5%以下であることがわかった。また、検査に当たってのご助言もいただいた。

この結果を基に、当協会の財政、正確な検査の維持、顧客の負担する検査料金を考慮して今後の検査方式を検討したい。



【提案議題2 とりまとめ】

○議長（長野県計量協会 長坂会長）

各団体から有意義な回答が出ているようなので、活用して検討していただきたい。

《提案議題の協議終了》

（3）講評

○仁科計量行政室長 様

小学生向けの出前授業などの普及啓発活動について興味深く聞いた。私自身も経産省の霞ヶ関夏休み子どもデーの一部を担当しているが、こうした先進事例のノウハウを共有して進めていただければと思う。それぞれの地域で心強い取組みをさせていただいているが、特にホームページ上で動画を公開したり講師のノウハウを共有出来れば、それを参考に勉強をして行ける。本日発表のあった 3 都県の授業を私も聞いてみたいと感じている。

既に計量強調月間には全国で様々な取組が行われているが、関ブロの取組みが先進事例として全国の見本となることを期待している。また、関ブロのすべての都県に協会ホームページがあり、普及啓発活動をしているのは心強い。

また、計量団体のみではなく他の業界団体の取り組みも併せて参考としてほしい。全国 LP ガス協会のホームページでは、子ども検定初級編、上級編などがありランキング登録されたり認定証が発行される。東京臨床工学技士会のホームページでは、比較的世間に知られていない当該資格や仕事内容について YouTube 動画で紹介されている。また、「お仕事年鑑」という全国の小中学校に配布される書籍（ネットで購入できる）に日本品質保証機構(JQA)の仕事内容が掲載されている。こういった小中学生向けの書籍にも「計量士」の職業紹介が入ってくればよいと思っている。

いずれにしても皆様が普及啓発活動に取り組んでおられる状況は心強く、感謝すると同時に引き続きよろしくお願いいたします。

二つ目のトラックスケールの仮分銅については、特に計量法令上の決まりはないので、他の協会のコメントにあるメリット、デメリットを踏まえて検討願いたい。

5 運営委員会中間報告（要旨）（大会冊子 17 ページから 18 ページ）

○運営委員会委員長（一社）埼玉県計量協会会長 金井 一榮

「一般計量士の会員確保や育成のための対策として当団体が取り組める事業及び具体的取り組み内容」

当運営委員会は、昨年の第 1 回計量大会における協議の際に継続して検討することが決定された事項について、代表者会議から調査審議することを付議されており、6 名の委員によりこれまで 4 回の委員会を開催した。委員会審議にあたっては、検討をするだけでなく、少しでも実行に移して一歩でも前に進めようという方針のもとで取り組んでいる。

検討項目をまとめると次の 3 点である。

- ①都県の垣根を越えて共同で実施できる事業の展開
- ②計量士のデータベースの構築
- ③計量士登録を容易にするための制度改正の要望

このうち①についての具体的取り組みとして、来年の 2 月 16 日に関ブロ協議会の名を冠した広域的な講習会を開催する予定である。産総研から講師をお迎えし、最近の計量技術、規制の動きなど会員の関心度の高いテーマについてお話しいただけるよう調整を進めている。

②については、個人情報問題もあり難しい部分があるが、手始めに代検査を行っている計量士のデータをまとめるなど、一歩でも進めたい。

③については、計量士に必要な実務経験の期間が行政の業務内容に偏っていて民間出身の計量士が育たない、時代にそぐわないものになっているのではないかと感じられる。これは関ブロだけの問題ではないので、日計振などにも相談しながら進めていく。

なお、関東甲信越計量団体連絡協議会のホームページを作ることを目指す、その前に構成各団体のホームページに相互リンクを貼るなど、できることから始めたい。



9 次回開催県挨拶（要旨）

○（一社）千葉県計量協会 瀬口会長

来年度の計量大会は 10 月 24 日から 25 日、場所は東京駅から JR で 1 時間少々、交通の便の良い成田市での開催を予定している。大会翌日には成田山新勝寺などを巡っていただく研修見学会も企画している。

本日の長野県大会が素晴らしい設営でプレッシャーを感じているが、私どもなりに精一杯の準備をして皆様のお越しをお待ちしているので、ぜひご参加をお願いします。



10 議長退任

○議長（長野県計量協会 長坂会長）

本日の議事は全て終了した。スムーズな進行に協力いただき感謝申し上げます。これにて議長の任を降ろさせていただく。

11 閉会

○長野県計量協会 新貝副会長

長時間にわたり熱心にご協議いただき感謝申し上げます。本日を始まりとして協議会一丸となって取り組むので、ご来賓各位には今後ともご指導、ご鞭撻を賜りたい。

これにて第2回計量大会の協議会を閉じさせていただきます。

■議事録署名

令和5年10月26日開催の関東甲信越計量団体連絡協議会の「第2回 計量大会 協議会」の議事及び経過について議事録を作成し、冒頭選出された議事録署名人がこれを確認し署名捺印する。

令和5年12月21日

議事録署名人

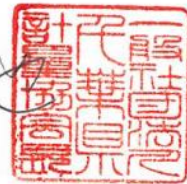
長野県計量協会 会長

長 坂



(一社) 千葉県計量協会 会長

瀬口カズ



(スクリーン映写資料の一部)

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

議事次第

(1) 会務・会計報告 及び会計監査報告 (4) 運営委員会中間報告
 (2) 提案議題 協議 (5) 次回開催県 挨拶
 (3) 講評



1

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

提案議題 1: 新たなメディアを活用した小学生向け 計量・計測の普及啓発活動

A. 事前アンケート
 ・アンケート結果報告(説明)
 ・課題の整理

B. 事例紹介
 東京計量士会
 神奈川県計量協会
 長野県計量協会

C. 協議、まとめ、今後のアクション

提案議題 2: トラックスケールの器差検査等に使用する基準分銅と「仮分銅」について

A. アンケート結果報告

2

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

提案議題1 説明

長野県計量協会

3

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

設問6

- ・ 出前授業を実施する際の障壁は
- ・ 実施するための改善点は何か

アンケート設問6のまとめ

項目	回答数
授業のシナリオ、教材がない	6
教材にできる映像資料が不足	6
教材としての計量・計測機器が不足	2
講師が養成できていない	6
学校・教員へのアプローチ方法が不明	5
行政からの実施要請がない	4
その他	

4

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

課題の整理

- ① 学校へのアプローチ方法、教育課程との整合性
行政との連携
- ② 講師の養成、スキル育成
- ③ 教育資料(動画(youtube 等)、実習、現物教材)

5

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

事例紹介

東京計量士会様

6

事例紹介

神奈川県計量協会・計量士会 様の取組

- ・夏休み小学生計量教室
- ・夏休みこども消費者教室（相模原市）
- ・今後の課題

案内パンフレット



中華民國 102 年 11 月 1 日 星期五 電話：(02) 2311-2111 傳真：(02) 2311-2112 地址：104 台北市中山區南京東路二段 11 號			
「臺北市中小學生計量學教室」參加申請書			
學校	學 區 臺北市立第一女子高級中學		
校長姓名	王 姓 王 姓		
通訊地址	臺北市中山區南京東路二段 11 號		
聯絡人姓名	聯絡人姓名 聯絡人姓名		
聯絡電話	聯絡電話 聯絡電話		
備註(可填寫學校特色、參加意願、其他說明等)	備註(可填寫學校特色、參加意願、其他說明等) 備註(可填寫學校特色、參加意願、其他說明等) 備註(可填寫學校特色、參加意願、其他說明等)		

案内パンフレット



開催の様子



神奈川県ホームページ図面の抜粋

神奈川県

DOI: 10.1002/anie.202314753

「かながわ子どもワクワク体験プロジェクト」について

神奈川県では、養育医療費等に、県の施設や学校で子どもたちの「生きる力」を育む体験活動を実施しています。

令和5年度 夏休みかながわ子どもワクワク体験について

修験活動は以下のジャンル（ものづくり修験、科学修験、自然修験、社会修験、歴史修験、その他の修験）から選ぶことができます。
 興味をもつ項目を選択して、参加してみませんか。

1. 15のつくくりおき (PDF: 458KB) (国ワンドワで開きます)
2. 科学活動 (PDF: 309KB) (国ワンドワで開きます)
3. 自然活動 (PDF: 354KB) (国ワンドワで開きます)
4. 社会活動 (PDF: 428KB) (国ワンドワで開きます)
5. 健康活動 (PDF: 458KB) (国ワンドワで開きます)
6. 6のつくくりおき (PDF: 322KB) (国ワンドワで開きます)

令和5年度 「親子ものづくり体験教室」について

生涯学習課では、書込み期間中に親子が参加できるさまざまな体験教室を実施しています。この春、いろいろなことにチャレンジしてみませんか。

事例紹介

長野県計量協会

提案議題 1 まとめ、今後のアクション

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

提案議題 2 説明

トラックスケールの器差検査等に使用する基準分銅と「仮分銅」について

アンケート結果報告(説明)

長野県計量協会

13

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

設問4

・ 仮分銅を使用した検査を実施しているか。
(ひょう量20tを超えるもの)

アンケート設問4のまとめ

項目	回答数
実施している	7
実施していない(分銅は受検者が準備、40t以上)	2
その他	-

項目	回答数
5%未満	1
～33%	0
～66%	1
～99%	3
100%	2

仮分銅を使用する割合は何か

18

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

議事次第

- (1) 会務・会計報告 及び 会計監査報告
- (2) 提案議題 協議
- (3) 講評
- (4) 運営委員会中間報告
- (5) 次回開催案 挨拶



15

関東甲信越計量団体連絡協議会 第2回計量大会 2023. 10. 26

議事にご協力頂きまして 有難うございました。



16

Ⅲ 感謝状及び記念品贈呈式

■ 受賞者 5名

氏名（所属団体）	受賞理由
鈴木 正美 様（茨城県計量協会）	平成 17 年から県協会理事、同 27 年からは副会長（計量士部会長）として関プロ代表者会議に参画して今年 6 月に退任、現在も理事の職にあり業界の発展に大きく寄与した。
矢島 廣一 様（埼玉県計量協会）	平成 21 年から県協会の副会長（計量証明部会長）として計量証明事業所従業者の主任計量者資格取得に尽力するなど、業界の意識や技術向上に多大な貢献をした。
近藤 正孝 様（東京都計量協会）	平成 13 年に都協会理事に就任、「都民計量のひろば」開催に尽力した他、全国計量器販売事業者連合会他の役員を務めるなど業界活動にも積極的に参加し、計量思想普及に大いに貢献している。
都筑 千秋 様（神奈川県計量協会）	平成 23 年以来県協会の理事を長年に亘り務め、現在副会長職にある。その間、事業委員長として「計量フェア」の実施・推進に尽力、また広報委員としても活躍し、計量思想の普及に貢献した。
関 博英 様（長野県計量協会）	平成 26 年から県協会副会長（計量士部会長）として関プロの代表者会議に参画して業界の課題解決に尽力、令和 2 年に退任後も一般計量士として正確な計量維持に貢献している。



【式には 4 名の方が出席し感謝状及び記念品が授与されました】
左より、近藤様、鈴木様、小川会長、長坂会長、都筑様、関様

受賞記念品（木曽漆器）

漆塗りガラスのビールグラス
丸嘉小坂漆器店が長野県工業技術試験場（現：工業技術総合センター）と共に研究を進め開発した、漆をガラスに焼付塗装した日常使用ができるビールグラスのペアセット（朱・緑）



IV 記念講演会

- 演 題 葛飾北斎の生涯 ～ 信州小布施の名品 ～
- 講 師 葛飾北斎専門美術館「北斎館」 学芸員 櫻井貴基 様



信州小布施は、江戸の浮世絵師・葛飾北斎(1760～1849)が晩年に逗留し、画業の集大成をはかった特別な場所です。83歳の頃に初めて小布施を訪れた北斎は、85歳で東町祭屋台天井絵「龍図」「鳳凰図」を、86歳の時には上町祭屋台天井絵「男浪図」「女波図」を、88歳で岩松院本堂大間、21畳の大きさの天井絵「八方睨み鳳凰図」を手掛けました。

講演会では、90歳で没した北斎の画業の変遷をたどり、年老いてなお絵に対する情熱を絶やすことなく自らの絵の進歩を願った北斎が、小布施の地で肉筆画の集大成を成すまでをわかりやすく説明していただきました。



【映像により説明する櫻井講師】

勝川春章の肉筆画を中心に雅俗論を研究。現在は、江戸以外の地域に足跡を残した浮世絵師や、文学と近世絵画の関係に関心を持って調査中。

今回は特にお願いして浮世絵に見られる計量・計測の話題を加えていただいた。



【東町祭屋台天井絵「龍図」「鳳凰図」】



【上町祭屋台天井絵「男浪図」「女波図」】

【浮世絵に見る計量・計測】※講演より

「地方測量之図」(国立国会図書館蔵) 嘉永元年(1848)の記載がある浮世絵に描かれた測量の様子。説明文は「土地を量りて遠近広狭高低曲直をくわしう知るは国家有益の用務にして～」で始まり、「此たび師より其道の免許をさへうけ給て(中略) 土地を量る図をうつ出て初学の人をみちびくたよりとするなん」との記載がある。個人の顕彰に加え、測ることの重要性の普及啓発とそれに携わる者の育成を目的としていることが読み取れる。

「景地図説」(甲斐広永)(江戸東京博物館蔵) 江戸時代の測量術の指南書。挿絵は北斎一門の葛飾為斎の手による。

V 懇親会

■ 概要

懇親会は130名の方々の参加を得て、第一日目の一連のプログラムの締めくくりとして開催された。まず、開催県である長野県の長坂会長が、信州の俳人小林一茶が秋を詠んだ一句『そば時や 月のしなのの 善光寺』を引き合いに「秋の夜長、新型コロナウイルス感染症の影響で積もり積もった日頃の話などゆっくりと歓談しましょう。」と挨拶した。



【河住専務理事の祝辞】

続いて(一社)日本計量振興協会の河住専務理事の来賓祝辞、開催都市である長野市の中村商工観光部長の乾杯により開宴された。

鯉の洗いや信州サーモン、そば、おやき、野沢菜、シャインマスカットなど信州の食材をふんだんに盛り込んだ料理を始め、日本酒、ワイン、

ウイスキー、クラフトジンなどの信州の地酒コーナーも設けられ、会場のあちらこちらで和やかな会話が弾んでいた。



【長野市中村商工観光部長による乾杯】

新型コロナウィルスへの感染の危険がゼロではなく、また、開催地の長野市は善光寺を中心に発展した仏都でもあることから、派手なパフォーマンスは控えて着座の上で穏やかに宴



【ミニコンサート 弦楽四重奏】

が進むよう、懇親会場への入場時間帯と歓談の時間には弦楽四重奏によるミニコンサートをお楽しみいただいた。

最後に、長野県計量検定所の平林所長の万歳三唱で懇親会を終了。次回の開催県である千葉県での再会を期して懇親会を終了した。

弦楽四重奏演奏者プロフィール

ファーストバイオリン 木内愛 (きうち あい)

兵庫県明石市出身、松本市在住。3歳よりバイオリンを始める。3人の子育てをほぼ終えた現在、会社員として働く傍らフィルハーモニック・オーケストラ・松本、アンサンブルヴェーチェル(東京)、アンサンブルエシュテ(静岡)にてコンサートミストレスを務め、各地で演奏活動と美味しい麦酒を楽しんでいる。

ビオラ 近藤聡 (こんどう さとし)

大阪府堺市出身、東御市在住。駿台提携予備校数学科講師。4歳よりバイオリン、18歳よりビオラを始める。3つのオーケストラの常任指揮者でもある。クラシックのみならずジャンソンやジャズ、アニメソング、ポップスなどジャンルを問わず、長野県を中心に全国で活躍中。音楽の裾野を広げるべく老若男女に音楽の楽しさを伝える活動も展開中である。

セカンドバイオリン 岡部より子 (おかべ よりこ)

静岡県掛川市出身、3歳より御代田町在住、バイオリンを始める。小諸高校音楽科卒業、洗足学園音楽大学卒業。現在、妹のまり子とよりまりシスターズとして演奏活動を県内各地で行いながら、よりまり音楽教室で後進の指導にあたっている。先輩方にオーケストラやカルテットの楽しさや音楽の奥深さを教えてもらいながら日々成長している。

チェロ 嘉納雅彦 (かのう まさひこ)

松本市出身&在住。5才よりスズキメソッドで水島隆郎氏の元チェロを始める。家業である音響技師の傍らチェロ&コントラバス奏者として活躍中。近藤聡とのデュオユニット「音喜楽ボーイズ」は結成30年を迎え県内はもとより全国でその演奏と軽妙なトークで多くのファンを獲得している。チェロをルドヴィート・カンタ氏に師事。現在ミュージックブラザグチ「大人のためのチェロ教室」講師

VI 研修見学会

第2回計量大会 研修見学会 行程表

関東甲信越計量団体連絡協議会 開催当番：長野県計量協会

令和5年10月27日(金) 大型バス2台(アルピコ交通(株))

期 日	行 程	備 考
10/27 (金)	(長野市：参拝・買い物) (小布施町) (小布施町) ホテル==善光寺・仲見世通り==岩松院(参拝・見学)==富蔵家本館蕎実亭(昼食)== 9:00 発 9:10~10:00 10:40~11:20 11:30 (昼食後自由行動) 信州小布施 北斎館(見学)==小布施散策・買い物==長野駅東口解散 13:15 発 14:00 頃	長野駅東口からホテルまでは、駅連絡通路を通り5分程度です。
善光寺 仲見世通り	駐車場から山門前までご案内します。その後自由行動としますが、時間までにバスへお戻りください。本堂内陣参拝・お戒壇巡りをされる方は、本堂内で「本堂内陣券 600 円」をお買い求めください。御朱印所は本堂正面左側です。	駐車場所は「たきや駐車場」です。地図をお渡しします。
岩松院	バス号車ごとに参拝し、本堂内の葛飾北斎筆「八方睨み鳳凰図」を鑑賞します。10分間の説明があります。御朱印は、鳳凰図鑑賞前に本堂入り口で申込み、帰りに受け取ります。	拝観券をお配りします。
蕎実亭 (昼食)	大型バス北斎館駐車場へ駐車。昼食場所は国道を挟んで向かい側奥の建物で、会場までご案内します。小布施出発までバスはこの駐車場に停車しています。	昼食会場にて北斎館の入館券をお配りします。
北斎館	葛飾北斎の肉筆画を中心に、版本や錦絵を収蔵する美術館です。予め入館券をお渡ししますので、昼食後に各自で自由にご見学ください。	
小布施 散策・買い物	大型バス北斎館駐車場(小布施市街地の中心)にあり、周辺は菓子店や造り酒屋などが集中しています。「栗の小径」や「中町小径」経由でゆっくり歩いて20分位で回れます。「おぶせ中心エリアMAP」参照紅葉の最盛期となり、土産物店や喫茶店は混雑が予想されます。集合時間に遅れないようご注意ください。	

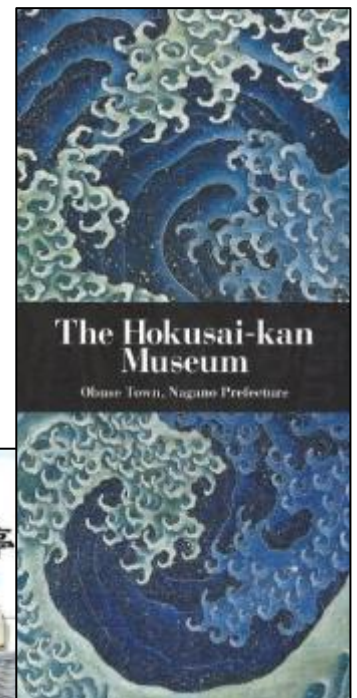
※このエクスカーションの交通費(貸切バス代)は(公財)ながの観光コンベンションビューローより支援を受けて運行しており、参加代金には含まれておりません。



【善光寺 山門 1750 年建立】



【善光寺 歴代回向柱納所】



関東甲信越計量団体連絡協議会 構成団体・連絡先 一覧			
(総務省の全国地方公共団体コード順)			
一般社団法人 茨城県計量協会			
会 長 佐藤 正 副会長・計量士部会長 小林 一雅	事務局 専務理事 武石 義男	〒310-0011 茨城県水戸市三の丸3-14-3 TEL 029-225-7973 FAX 029-225-7974 ibakeikyo.i@ymail.plala.or.jp	
栃木県計量協会			
会 長 崎尾 肇 計量士部会長 亀山 崇	事務局 事務局長 南木 良夫	〒321-3226 栃木県宇都宮市ゆいの社1-5-64 TEL 028-667-9622 FAX 028-667-9426 t-keiryoku@sky.plala.or.jp	
一般社団法人 群馬県計量協会			
会 長 横田 貞一 計量士部会長 笹尾 利昭	事務局 専務理事 鈴木 博久	〒379-2152 群馬県前橋市下大島町81-13 TEL 027-263-8217 FAX 027-261-9317 gunkeikyo@dan.wind.ne.jp	
一般社団法人 埼玉県計量協会			
会 長 金井 一榮 副会長・計量士部会長 恵田 豊	事務局 専務理事 小堀 和弘	〒331-0825 埼玉県さいたま市北区榎引町2-254-1 TEL 048-666-4787 FAX 048-668-0330 soumu@saikeikyou.or.jp	
一般社団法人 千葉県計量協会			
会 長 瀬口 力也 計量士部会長 鶴岡 賢一	事務局 事務局長 米谷 賢徳	〒263-0015 千葉県千葉市稲毛区作草部1-18-3 TEL 043-287-1314 FAX 043-287-1586 chibakeiryoku@ybb.ne.jp	
一般社団法人 東京都計量協会		東京計量士会	
事務局 〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目3番41号		事務局 〒136-0075 東京都江東区新砂3丁目3番41号	
専務理事 堀井 茂		事務局長 檜林 功	
会 長 小川 弘 副会長 横山 守二	TEL 03-6666-8960 FAX 03-6666-8970 s-horii@tokeikyo.or.jp	会 長 小林 悌二 事務局長 檜林 功	TEL 03-5683-1122 FAX 03-5683-1122 tokeisi@tokeikyo.or.jp
公益社団法人 神奈川県計量協会		神奈川県計量士会	
事務局 〒221-0062 神奈川県横浜市神奈川区浦島丘4		事務局 〒221-0062 神奈川県横浜市神奈川区浦島丘4	
専務理事 山口 泰彦			
会 長 谷本 淳 専務理事 山口 泰彦	TEL 045-401-4420 FAX 045-433-4177 keiryoku-k@hyper.ocn.ne.jp	会 長 児玉 充弘 副会長 小林 勇	TEL 045-401-2005 FAX 045-401-2005 kkeiryoshikai@yahoo.co.jp
一般社団法人 新潟県計量協会			
会 長 大平 岳男 副会長・計量士部会長 五十嵐 一人	事務局 専務理事 西片 一喜	〒955-0046 新潟県三条市興野1-13-45 TEL 0256-36-2354 FAX 0256-36-2605 keiryokyoukai-ni@ap.wakwak.com	
一般社団法人 山梨県計量協会		一般社団法人 山梨県計量士会	
事務局 〒406-0035 山梨県笛吹市石和町広瀬785		事務局 〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田2722-1	
事務局長 三上 正美			
会 長 川島 英一 専務理事 清水 康人	TEL 055-225-5046 FAX 055-261-9132 yamanashik@bz04.plala.or.jp	会 長 清水 健次 専務理事 清水 康人	TEL 055-242-7685 FAX 055-242-7686 yjamp@ninus.ocn.ne.jp
長野県計量協会			
会 長 長坂 宏 計量士部会長 新貝 和雄	事務局 専務理事 若林 真一	〒390-0852 長野県松本市島立1020 TEL 0263-40-5230 FAX 0263-40-5231 keiryoku-nagano@brown.plala.or.jp	

■御礼のこたば■

令和 5 年 10 月 26 日（木）～27 日（金）に長野市で開催をいたしました関東甲信越計量団体連絡協議会第 2 回計量大会には、多くのご来賓のご臨席を賜ると共に、会員の皆様にはお忙しい中、また遠路遥々ご参加をいただきまして誠にありがとうございました。

遠くの山々に雪が被り木々が色づき始める信州らしい晩秋の装いの中、おかげさまで天候にも恵まれて盛況のうちに無事終了することができました。

開催にあたりご尽力いただいた関係各位に深く感謝を申し上げますと共に、不行き届きの点多々あったかと存じますが何卒お許しいただきたく存じます。

今大会では、一人一人が小さなことでも積み重ねてすそ野を広げ、計量計測意識を盛り上げていこうとの議論の取りまとめをさせていただきました。私としてもこれを契機に、微力ではありますが計量界への一層の貢献ができるよう尽力していこうと決意を新たにしているところでございます。

本書は、大会の全容を記録するものとして、大会プログラムに従い議事録を含めて報告書としてまとめたものです。

今後の大会運営や計量・計測普及啓発活動の参考としていただければ幸いです。

皆様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、改めて御礼のご挨拶とさせていただきます。

令和 6 年 3 月

長野県計量協会 会長 長坂 宏



【八幡屋礒五郎 七味唐辛子 計量大会記念缶】

■ 編集後記 ■

～ 大会開催を担当した事務局からの視点で報告 ～

○ 大会の提案議題について

会員団体への提案議題募集期間は従前に従い約 1 か月間設けたが、議題の提出ははかばかしくはなかった。

これは、計量士不足、若手計量士の育成、自動はかりの検定などの諸問題については、既に議論が進んでおり、同じ問題を取り上げるには、新しい視点に立った議論の場にしないと陳腐な大会となってしまう、という懸念を皆さんがお持ちだったからと思われる。

かといってその他の問題に議論を求めることも、「計量人」であることのみで共通のテーマの上に立てるのかどうか、提案することを躊躇されたからではないか。

今回は「計量教育」という普遍的でこれまでも議論されてきたテーマを議題に据えたが、切り口を変え、参加者の皆さんに実際の小学生向け出前授業の映像資料を見ていただきながら体験していただくことを主眼とした。

当協会の実行委員会では、映像資料を見た後にパネラーによるディスカッションをしたらどうかという意見も提案されたが、時間の制約もあり今回は見送っている。

今後も提案議題が出にくいことを想定する必要がある。

* 募集期間を延ばす。

* これまでと同じ議題でも切り口を変える、議論のスタイルを変える。

* 大会を全体会議と分科会に分け、議論の場は分科会とする。

* 募集の際に、議論するための議題と、情報交換、各団体への照会・回答を分ける。

* 代表者会議、事務担当者会議から提案する。

○ 大会準備について

どの団体でも通常業務に必要な職員を確保しているのみで、余分な人員は保有していない。

このため大会開催県では、平年に比較すれば事務局職員への負担が増大する。当協会では準備に携わる正規職員 2 名の大会前直近 3 か月の超過勤務時間は 250 時間を超えた。

今回は 36 協定書を労働基準監督署に届出て超過勤務手当の支払いに対応したが、金銭の問題以外にも過度の負担を強いることのないよう予め対策を講じておく必要がある。

* 主催団体の能力に見合った大会規模の適正化 大会行事の簡素化

* 役員への事務分担の依頼

* 事務の簡素化、他団体に予め準備をお願いする事務範囲の拡大の検討

・ 参加申込期限を 2 段階とし、1 次期限後の変更はまとめて最終期限に報告する。

・ 参加者名簿を大会冊子と別にする又は 1 次期限後の変更は反映させない。

・ 負担金の入金大会開催後とし、キャンセルによる返金手続きをなくす。

・ 領収書は各団体の長名で各団体が発行し、開催県は当日現金払い分を用意する。 等

○ 大会経費について

人件費や諸物価の上昇により大会開催経費の増は避けられない。当協会では、会務が潤沢だった時代の積立金が残っており大会経費に充てることとしたが、この積立金がなければ、参加費を 1 名 1 万円ほど増額するか大会行事の簡素化などの対応が必要となった。

○ 事後処理について

議論ただけで終わらせず、関ブロとして取り組めることを検討して進めることができれば、大会の意義はより大きくなる。昨年度の埼玉大会後の取組みは良い手本となる。

一方で、今大会後に望まれる教育用映像資料の開発のように、代表者会議や運営委員会での審議になじまないと思われる事案には、外部の有識者も巻き込んで自ら積極的に取り組もうとする有志が現れることを期待したい。

